

HOPES

ホープス セカンド

2nd

大好きな佐須で花づくりに挑戦

菅野 次美^{つぐみ}さん（佐須）



南相馬市の出身。村に嫁ぎ、夫の両親、祖父母と同居。一人娘の恵美さんを育てました。自宅横に建てた農業用ハウスで、今年からスターチスの栽培をスタート。8月から出荷も始まりました。

「家の田んぼを手伝うくらいで、農業の経験はほとんどないのですが」と菅野さん。両親と共に、どうしたらこの土地を荒らさずに維持できるだろうと考えた時、近所の花農家や種苗会社と相談しながら、花をつくってみようと決めました。

夏本番、夜明けと共に始まる作業に、家族が協力し



水田だった場所を整地し、補助事業を活用して、3棟の農業用ハウスを建てました。栽培時期をずらして、白・ピンク・黄色など、花姿の異なる数種類のスターチスを育てています。

ます。「じいちゃん、ばあちゃんに助けてもらっています」。

菅野さんは、嫁いできた佐須の暮らしが「とても好き」でした。「近所の人や、栗ご飯をつくったから持って行け」と声を掛けてくれる。次美ちゃん、次美ちゃんとみんなが呼んでくれる。やがて娘の恵美さんが「虎捕太鼓」に参加。送り迎えをしていた菅野さんも、地区のお嫁さん達と声を掛け合って、その一員になりました。「太鼓は十数年続けました。みんな一緒に楽しかった」。

スターチスの出荷作業は「まだ教えてもらいながら、何とかやっているところ」で、想像以上の忙しさだそうです。「いつか、この仕事で、友達と一緒に働けたらいいですね」。佐須で過ごした温かな記憶が、菅野さんの新たな夢を支えています。

〈編集後記〉

● 昨年、県知事賞を受賞した福島放送主催「CM大賞」に、今年も応募しています。今回は、インターネットでのWEB投票も行っていますので、9月23日までに、ぜひ、村のCM作品にご投票ください！詳しくは「CM大賞2020 福島」で検索ください。目指せ大賞!!（木幡）

● 「山美しく水清らかな」と始まる村民歌。村に移り住んだ新村民の皆さんは、この景色がとてもいいと言います。そして、何と言っても人が温かいと。「土よく肥えて 人情ある」まさにそう。親切なだけではありません。自分の言葉で人生を語る人の何と多いことか。ここで自分の幸せを見つけない、暮らしを紡いでみたいと思わせる土壌があることを更に実感している私です。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。